

第3回浜松地区大学再編・地域未来創造会議議事録

開催日時：令和3年7月30日（金）14:00～15:15

開催場所：浜松市役所庁議室

出席者：・浜松市長	鈴木 康友
・浜松市議会議長	和久田 哲男
・浜松商工会議所会頭	大須賀 正孝
・一般社団法人浜松市医師会長	滝浪 實（オンラインで出席）
・公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構 フotonバレーセンター長	伊東 幸宏
・公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構 次世代自動車センター長	望月 英二
・国立大学法人静岡大学長	日詰 一幸
・国立大学法人浜松医科大学長	今野 弘之

報道：4社

次第

- 1 開会
 - 2 市長あいさつ
 - 3 出席者紹介
 - 4 議事
 - (1) 法人統合・大学再編に向けた状況及び今後について
 - (2) 大学と地域の未来に向けた産学官金の連携強化等の取組について
 - ・浜松地域における産学官金の連携事例について
 - ・意見交換
 - 5 その他
 - 6 閉会
-

1 開会

(事務局 (企画調整部長))

ただいまから、第3回浜松地区大学再編・地域未来創造会議を開会いたします。
それでは、会議の開催にあたりまして、浜松市長からごあいさつ申し上げます。

2 市長あいさつ

(浜松市長)

それでは、両学長をはじめ、委員の皆さまには大変ご多用の中、第3回となります浜松地区大学再編・地域未来創造会議にご参加をいただきまして誠にありがとうございます。

この会議につきましては、令和2年10月に設置をいたしまして、今年の2月に第2回の会議を開催いたしました。その時に文部科学省から今後の大学についての国の見解をいただきまして、「国はこれから特徴のある地方大学を育成し、地方創生に資する大学の機能強化を図っていく。」というお話がございました。私たちもこの流れに乗り遅れないためにも法人統合・大学再編を成し遂げて、核となる組織を形成していく必要があると思っております。

本日は、まずは両学長から法人統合・大学再編に向けた状況および今後についてご説明いただきまして、その後、本地域において産学官金連携で取り組んでおりますさまざまな事業、プロジェクトについてご紹介をし、今後の地域の未来像について意見交換をしてみたいと思います。

限られた時間ではありますけれども、皆さまそれぞれの立場から、テーマにつきまして忌憚のないご意見を賜りますことをお願い申し上げます。

よろしく申し上げます。

3 出席者紹介

(事務局 (企画調整部長))

それでは、お手元の次第に従いまして進めさせていただきます。次第3の出席者の紹介につきましては、本日配付いたしました出席者名簿に代えさせていただきます。

今年度から新たに浜松市議会議長に就任された和久田様と、静岡大学学長に就任されました日詰様にご出席をいただいております。

(静岡大学長)

日詰でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局 (企画調整部長))

また、浜松市医師会の滝浪会長につきましては、Web 会議システムを使用してお出席をいただいております。滝浪会長につきましてはご予約の関係で 14 時 50 分ごろに退席されます。

なお、浜松いわた信用金庫の御室理事長は本日欠席でございます。

それでは、本日の議事に移ります。ここからの進行は、座長であります浜松市長にお願いします。

4 議事

(1) 法人統合・大学再編に向けた状況および今後について

(浜松市長)

まずは、法人統合・大学再編に向けた状況および今後につきまして、両学長からお話をいただきたいと思っております。

まずは日詰学長からお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

(静岡大学長)

ただいまご紹介にあずかりました静岡大学の日詰でございます。4月に着任いたしまして、今回、この会議には初めて出席をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。にもかかわらず大変僭越ではございますけれども、最初に法人統合・大学再編に向けた静岡大学の状況について、ご報告をさせていただくということでございます。

4月に着任をいたしましてから、学内においても法人統合・大学再編について丁寧に説明をしていくと、そして、その説明を基にしながら、対応を進めていくということが私の方針でございます。それに基づきながら今いろいろと対応を進めているところでございます。

そのような状況の中でありまして、とりわけ、今日、今野先生からもご紹介があらうかと思っておりますけれども、静岡キャンパス側の具体的な動きといったものが少し遅いのではないかと、こういうご意見をいただいているところでございます。

そこで今、私どもといたしましては、当初の構想をさらに充実、発展させた改革にすべく、私どもとして、特に、新学部を構想しようということですか、さらには先ほど鈴木市長からもご紹介がございましたけれども、地方創生の流れというのは非常に強くなっておりますので、この地方創生を支えるような大学間連携といったものも強くしていかなければいけないと思っております。

もちろん浜松医科大学との関係、さらには県内における公立大学、あるいは私立大学との連携、そういったものも進めながら新たな教育や研究に関して、さらには地域の活性化に向けてのプラットフォームをつくっていくといったところにまで視野を広げながら、対

応をして行きたいと考えております。

そういった形での議論を今進めているところでございまして、なるべく早く学内の調整を終えて、これが対社会的にもこういう方向で進んで行くということを明確にできればいいと考えております。当初の予定からは遅れているということに関しましては、心からおわび申し上げさせていただきたいと思っております。

ただ、より良いものにしていくための時間として使わせていただいているということで、ご理解、またご承知おきいただけると幸いです。

資料をご用意いたしました。私どもの大学は1949年に、日本全体で新たな新制大学ができたわけでございますけれども、その一員として設立され70年以上の歴史を持っているということでございます。設立の当初から工学部は浜松に置かれまして、そこで浜松市と非常に強固な関係を構築してきているということでございます。

資料にもございますけれども、浜松市、浜松医科大学、そして私どもの大学で、浜松市が描いているような地域のビジョン、こういったものを実現できるように下支えしていく。あるいは、私どももその一員の中に入ることによって教育研究をさらに高めていくということを願っております、とりわけ浜松市はデジタル・スマートシティ構想を作成されたり、さらにはスタートアップ・エコシステムの拠点都市ということで、この中でも非常に重要な役割を担ってらっしゃるということでございますので、そういった浜松バレー構想ですね。それから、さらには浜松ウエルネスプロジェクトの推進です。そういったものを進めて行くために、私どもがこれまで築き上げてきましたさまざまなシーズ、そういったものを浜松医科大学と連携しながら実現していくということに、力を注いでいきたいということでございまして、これはこれからも変わることなく進めさせていただきたいと考えております。

2枚目に具体的に、私どもではイノベーションに係る人材育成ということで、特に工学部、情報学部ではこれまでも力を入れてきておりますし、国からもいただいた補助金を使いながらエコシステムを作ったり、その中に学生たちを起業家として育成し養成していくといったようなこともございます。

その成果として今、スタートアップ企業が36ございまして、それが全国でも20番目ぐらいの位置にあり、これは国公立、私立合わせてのということでございますけれども、比較的スタートアップ企業を世に示すということでは、私どもの大学としても貢献させていただいているのではないかと考えております。

そういうことで、新たな浜松地区におけるものづくりに加えて、新進の起業家を育成して浜松の経済を下支えしていくといったような循環も考えておりまして、そういったところで貢献できるのではないかと考えています。

加えて、私どもの大学の強みでございまして、光というのはこれまでも非常に重要な大学のシーズでございまして、そういったものをさらに発展させていくと。そういったものの中で、さらに浜松市が目指している都市ビジョンにも貢献させていただけるので

はないかと考えています。

3 ページ目は、今申し上げたようなことなのでございますが、その中で持続可能な連携の場をつくっていくということで、私どもの大学、浜松医科大学、そして地域の他の企業、さらには金融機関であるとか産業支援機関、大企業、中小企業、あるいは医療機関、そういったものが全て連携することによって、新たな魅力ある浜松市をつくっていくといったところに貢献できればと考えております。

こういった取り組みというのは、まさに 2030 年に向けて SDGs といった形で取り組まれていくところでございまして、17 の目標、169 のターゲットがございすけれども、そういったこととも連携しながら、私どもも貢献させていただければと思っております。

そういうことで、今私どもの方でも大学としての機能強化を図りつつ、浜松市の発展のために少しでも貢献できる場所を取り組んでいきたいということを考えておりますので、その辺もご理解をいただければと思っております。

非常に雑駁で簡単な報告ではございますけれども、今そんな形で取り組んでいるということでご紹介をさせていただいております。

どうもありがとうございました。よろしくお願いたします。

(浜松市長)

それでは、続きまして、今野学長からお願いいたします。

(浜松医科大学長)

浜松医科大の今野でございます。この第 3 回浜松地区大学再編・地域未来創造会議で発言の機会をいただき誠にありがとうございます。

ざっくばらんに申し上げますと、われわれは今、産みの苦しみにあるのかなと思っております。日詰学長とも学長就任以前の昨年度末から、忌憚のない意見交換をしましてしたので、基本的な再編・統合という路線に沿って連携を進めているという過程にあると理解しています。

あらためて申し上げるまでもありませんけれども、われわれが目指している再編・統合により、先鋭的な 2 つの大学、すなわち日本初の学部構成、医学・工学・情報学を持つ Society5.0 を牽引できる浜松地区大学と、文理領域の四学部による総合知を活用した SDGs の達成を目指す静岡地区大学が誕生し、法人全体として両大学の連携による教育・研究・社会貢献の充実と発展が図られるものと思っております。この基本的なところは変わるところはありません。

少し浜松地区大学の構想についてお話したいと思います。まずは浜松市の鈴木市長のご理解と市議会のご承認ということで、今、板屋町の統合準備室を無償で使わせていただいております。実は非常に有効に使わせていただいております。現在ほとんどの会議は統合準備室で行っております。本当にありがとうございます。感謝申し上げます。

では、浜松地区大学の将来構想ということで申し上げます。お手元の資料をご覧ください。これは浜松地区の大学運営検討専門委員会で検討し、まとめたものでありますが、より良い未来、豊かで幸福な人生を支える社会の創生、成果を地域に還元するとともに世界へ発信ということで、Innovative Society & Better Life Acceleration と謳っております。

具体的な 3 つの柱立てがございまして、ソーシャルウェルネスの実現、イノベーションの創出、スーパーシティの実現ということが書かれています。これはオープンイノベーションプラットフォームとして、異分野融合、即ち教育・研究が 2 つの大学の分野を超えた再編によりまして、先鋭的なものになるということです。

浜松医科大学の医学科・看護学科、また浜松キャンパスの工学部・情報学部が一緒になることによりまして、地域連携・国際連携による知の拠点の形成が図られ、医療では高度で安全な最先端の医療が提供でき、地球環境に調和する革新的技術も創出されることになると期待しています。これにより国内外の人材の受入や共同研究が促進され、バックキャストによる戦略的な教育・研究施策の展開が可能となると考えています。

次の資料をお願いいたします。これは浜松医科大学からのアプローチということで、6月に文科省主催で行われました大学改革補助金のヒアリングで使った資料です。

DX（デジタルトランスフォーメーション）による価値創造と地方創生を実現する先鋭的な大学と位置付けておりまして、これはまさに浜松市が目指しております「Well-being スーパーシティ」と共創していくということです。

今回のコロナ禍でわが国の情報基盤や IT 化だけでなく医療面での課題も明らかになりました。今後、本邦においてデジタル化を中心とした社会制度・組織改編が進められると思います。このような時代の変革の中で浜松市は、Well-being スーパーシティの実現を目指しておられますが、浜松地区大学は先鋭的な大学として、DX による価値創造と地方創生を実現するために、浜松市と共創して行きたいと思っております。

この医療の DX、「MDX（メディカル・デジタル・トランスフォーメーション）」と銘打っておりますが、これを加速させていきたいと思っております。AI や IoT、ビッグデータの解析技術を用いまして、附属病院のスマートホスピタル化を実現したい。例えば、AI 化手術室、AI 診断などを進化させ、時代を先取りした最先端の高度先進医療を目指します。

さらに個人情報に配慮をした上で、診療記録や画像診断結果等、さまざまなデータを関連病院とクラウド管理して連携を強化します。これによって患者さんにとっての利便性が飛躍的に向上するだけでなく、集約化と機能分化した病院群（病院ネットワーク）が形成され、感染症の蔓延に際してもきちんとした医療体制が構築され、地域住民に質の高い安全な医療を継続的に提供できることとなります。

このような DX による新たな医療体制の構築は疾患の治療のみならず、住民の健康管理や未病段階でのサービス提供、例えば、個々の住民に適した運動、食事等の日常生活の指導や、心身の異常の早期発見などにより、地域の Well-being 実現に多方面で貢献できます。

教育に関しましては、Society5.0 で活躍できる複合的な専門性を有する人材の育成を目

指します。具体的には、学部間の共同カリキュラム等により学生の適性と能力に応じた分野横断的な修学の機会を提供します。例えば、医療機器やシステム開発に興味を持つ工学部の学生がオンサイト教育、つまり医療や看護の現場で経験値を高め、将来のキャリアパスにつなげるようにしたいと思っております。

また、昨年度初めて博士後期課程として卒業生を送り出しました光医工学をはじめ、医療工学、情報医学などの複合的な科学技術の専門教育、また、社会人のリカレント教育の推進により、多様なキャリア形成を支援し、分野を超えて自らが希望する修学を可能といたします。

研究は再編の早期に成果が期待される領域ですが、すでに両大学の研究者から種々のプロジェクトの研究が進んでおります。医学・工学・情報学の横断的研究を推進し、大学を中心としたイノベーションを創出します。

さらに現在、私たちの強みとしております産学官に金融を加えた産学官金の連携を拡大強化します。加えて大学や病院発のベンチャーのさらなる促進や、学生や大学院生のアントレプレナーシップの涵養を具現化したいと思っております。例えば、手術室に隣接した医療機器開発の工房を設置するなど、現場のニーズを直接肌で感じ取った上で、若い新鮮な発想力で新たな技術や機器の開発につなげる仕組みを構築します。

このような地域貢献・教育研究を通して新たな価値創造の基盤となる、地域とともに持続可能で強靱な健康社会の創出をめざしていきたいと思っております。

最後の資料をご覧ください。日詰学長より浜松地区における産学連携の構想を提示されましたけれども、浜松医科大学といたしましても、これまで多くの事業を行ってまいりました。新たなセンターを設置し、浜松市の共創をメインに産学官連携を強化いたします。

上段中央の写真は、地域の企業や金融機関とともに運用しております医工連携拠点棟（iMec 棟）です。ここに医工連携教育研究センター（仮称）を設置いたします。

本学では来年度から始まる第4期6年間、国立大学は必ず6年周期で中期計画を出しますが、ここの柱として学部学生・大学院生のアントレプレナーシップ教育を掲げております。

このセンターの目的の1つは、地域の大学や企業・医師会・医療機関とともに、若い学生にデザインシンキングやクリティカルシンキングを根付かせることにあります。これによりまして学部学生・大学院生のアントレプレナーシップの涵養を行い、若手の柔軟なキャリアパス形成や起業につなげていきたいと思っております。

右側に書いてありますのは、研究を中心としたもので、先ほど申しあげました異分野横断的な共同研究、医療情報の解析等により、医療機器システムの開発やウエルネスの実現に寄与したいと考えています。

一番下に書いてありますのは、以前より実施している事業で、「Ikollabo Hamamatsu」と書いてありますが、百数十社と一緒に、地元の企業と一緒に事業を行っております。

医工連携教育研究センター（仮称）はこのような、これまで行ってきた事業をベースと

しており、医療のDXによるレジリエントな地域医療体制の樹立や、企業支援等による社会課題への挑戦を行っていきたいと考えています。

若い斬新なアイデアを起業等により、社会課題に地域連携・大学連携という広い立て付けで取り組むことを目指したい。

以上でございます。ありがとうございます。

(浜松市長)

それでは、ただいま両学長からご説明をいただきましたけれども、それに対しまして委員の皆さまからご質問がございましたらお願いいたします。

(次世代自動車センター長)

前回のこの会議の中でも統合・再編が遅れるという話ならできるところからやりましょうというお話の中で、今の今野先生のお話で、センターをつくって業績を見える化して、行政の方が必ず入ってそれを公表するとか知らせるとか、あるいは何らかの出口支援をするとか、そういうことが必要だと思うのですけれども、それが段々できてきつつあるなどという感じがするのですが、そこで私から日詰先生に、ぜひ静岡キャンパスも含めた静岡大学としての取り組みというのを、私からはお願いということでお話をさせていただきたいのですけれども。

1つ目は、根本的な考え方は静岡大学の未来価値を向上する。民間で言いますと企業の価値は事業性を評価するのですけれど、その時に現在価値と未来価値と両方見ます。

この未来価値の創造のときには、未来価値を向上させるためには、1つの方法として連携があると思います。それはイノベーションが起こるから。そういう意味で未来価値を向上させるということをぜひやっていただきたいと。

そのためには2つあって、1つは法人としての組織的なところ、日詰先生のリーダーシップ、法人メンバーとしての心構えと言っただけではいけません、そういうのをきちんと組織化するということ。

私は浜松キャンパスと浜松医科大学がどんどん進めているという話だったら、静岡キャンパスも浜松キャンパスと何かできないかとか、浜松医科大学と何かできないかとか、あるいは県立大学と何かできないかとか、ということ、何かできないかと考えているよりも、まずやっているのかやっていないのかという実態調査を大学の中でやって、それをやっている所を見つけ出して支援する、寝てしまっている所はそれを見させて奮い起こすという、そういう具体的な動きをするということが、統合・再編をする前にやらなければならないことなのではないかということで、ぜひ日詰先生にはそこをやっていただくと見える形になるということ。

その時に行政の方が必ずサポートしていくということ、先ほどの医工連携の研究センターでも行政が絡むように後方的な支援とか、あるいはお金、出口の支援であるとか、人

材の支援であるとか、そういうことをぜひ浜松キャンパス・静岡キャンパスを含めて今できることを見つけないという取り組みを、ぜひ、行っていただきたいというのが私からのお願いです。

(浜松市長)

それはご質問ということではなくご意見ですか。

(次世代自動車センター長)

お願いでございます。

(浜松市長)

先ほど日詰先生も県立や私立との連携とかというお話もありましたし、私も静岡キャンパス、例えば静岡県立大学と連携して創薬とかバイオの一大拠点になることですね。そうすると静岡県全体のメディカル産業の大きな発展に貢献できるのではないかと、いろいろな将来構想が巡っています。それらにつきまして、先生、何かコメントをいただければと思います。

(静岡大学長)

望月センター長からは大変有益なご提案をいただきましてお礼申し上げたいと思いますし、また鈴木市長からも県立大学との連携のお話もいただきましたが、まずは静岡大学の中で浜松と静岡が分かれているという意識というのは、やはりあるわけなのですけれども、双方がつながっていくという、そういう発想がどうしても必要だろうと思っております。

例えば、浜松の場合は工学部・情報学部、静岡の場合ですと人文・教育・理学・農学ということで、どちらかと言うと農学を除きましては基礎研究と言いましょか、そういった所が中心になるわけですが、そこでの基礎研究をさらに応用研究の方に結び付けていくということがとても大事で、その点で言いますと、どちらかと言うと浜松の工学部・情報学部の方は基礎研究もさることながら、応用研究ということになりますので、その社会への実用化ということと言うと、相当な違いがあるわけです。そここのところをうまくつなぐことによって、さらに静岡地区の持っているシーズを浜松でも使っていただける。そういうようなつながりをどうやってやればつくれるのかということ、今、議論を始めております。ですからもうしばらくお時間をいただきたいと思っております。

また、さらに静岡キャンパスと浜松医科大学との関係につきましても、使っていただけるシーズがあるだろうと思えますし、その一環として、これまでも農学部と浜松医科大学との間で研究交流をしたりとか、この9月に予定をされておりますけれども、理学部の教員の皆さまと研究、発表の機会をいただくということになっておりまして、今までなかったようなそういう動きも、少しずつではございますがでて来ております。そういう意味で

は非常に面白い取り組みが、これからどんどんできていくのではないかと期待をしております。

設置形態の違う静岡県立大学との関係をどうするかは、これからの課題だというふうを受け止めておりますけれども、そんなところで、これからも望月センター長からご意見を賜ったようなところを大事にして取り組んで行ければと思っております。ありがとうございます。

(次世代自動車センター長)

1つだけ申し上げますと、これからやるのではなくて、今すでにやられているという、あるいはやろうとしているという実態を、きちんと静岡大学でつかむべきだと申し上げているので。

(静岡大学長)

なるほど。

(次世代自動車センター長)

これからやるのではなくて、まずは実態を把握して、そこからどうやるかということを考えていただくという、まずできることをやっていただく。そういうことを申し上げます。

(静岡大学長)

すでにできているものもあると思います。それは可視化するというのも、われわれは少し足りなかったかなというふうには思っておりますので、その辺りは心当たりがあります。ありがとうございます。

(浜松市長)

その他よろしいですか。

(フォトンバレーセンター長)

基本的な方針に変更はないということをお聞きして、まず安心をいたしました。今の段階で説明や対話というお話だと、少しスピード感というものに物足りないなということを申し上げざるを得ない。

より良いものを目指していくということは十分理解はできますが、こういうものを進めて行くときにある程度の時間軸の設定だとか、あるいはいきなり全部を完成させるのではなく、段階を作って目標を数段階設定して進めて行くということが必要だと思います。

各項目の時間的な目安というか、当初の予定が遅れて現在に至っているわけですが、今

後いつ頃までにどのあたりまで進めるという、その辺りをお聞かせいただければと思います。

静岡県立大学とかの話まで一気にやるというと、相当な時間がかかりますので、私も静岡県立大学の評価委員を務めていて、中の事情は結構分かっていますが、県立大のところまで一気に進めるというのはどう考えても無理です。将来的にそういうことも視野に入れなければいけませんけれども、当面の目標としてどこを設定して、いつまでを目指すのかということを明らかにした上で、みんなでそれに向かって協力して行くという体制づくりも必要ではないかと思います。

4 議事

(2) 大学と地域の未来に向けた産学官金の連携強化等の取組について

(浜松市長)

途中また意見交換の機会を設けておりますので、取りあえず次の連携事業の取り組みについての説明に移って、後でまたまとめてご意見をいただきたいと思います。

それでは、この浜松地域において取り組まれている産学官金の連携事例につきまして、事務局から説明をお願いします。

(事務局 (産業部長))

本地域の産学官金の連携事例につきまして、お手元のパワーポイントに基づいてご説明をいたします。事例といたしましては、お話が出ておりました医工連携拠点、そして A-SAP、イノベーション・エコシステムの 3 点となりますけれども、この他の事業も含めまして、それぞれ中心になってご活躍いただいている方々が、本日まさにこの会議に出席していただいておりますので、私の説明の至らない点につきましては、後ほどご説明を加えていただければ幸いです。

それでは、まず連携の前段といたしまして資料 1 ページをご覧ください。上のタイトル帯に記載の「はままつ産業イノベーション構想」は、本市の産業政策の指針となるものですが、この構想で産学官金の連携を掲げております。

また、資料中段のウ「計画期間」に記載のとおり、今年でこの計画はちょうど 10 年を迎えることから、現在、構想の改定作業を進めておりまして、その中で地域企業へのアンケートも実施していて、産学官金連携についての興味深い結果が出ておりますので、後ほどご紹介をさせていただきます。

2 ページは主に国プロジェクトの取り組みの変遷を通しまして、この地域の産学官連携の経緯を示しております。

2002 年からの知的クラスター創生事業は文部科学省のプロジェクトで、当時、浜松地域テクノポリス推進機構(現:イノベーション推進機構)をはじめ、静岡大学、浜松医科大学、

静岡県、浜松市、浜松商工会議所などが参画したものでございます。

その後もプロジェクトは形成されるとともに、公益財団法人浜松地域イノベーション機構内に、2017年にはフォトンバレーセンター、翌2018年には次世代自動車センターを開設しております。そして2009年、2016年、2018年、この3つが連携事業の主なものとなりますので、次のページから順にご説明をさせていただきます。

3ページです。はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点です。医工連携拠点と呼んでいるものです。JST（科学技術振興機構）の事業採択を経まして、浜松商工会議所、浜松地域テクノポリス推進機構、浜松医科大学、静岡大学、光産業創成大学院大学、静岡県、浜松市、以上7つの団体が連携しておりまして、場所としては浜松医科大学内に所在しております。

内容としては、健康医療分野とものづくりの掛け合わせによって、健康医療関連産業の基幹産業化を目指しているものです。現在まさに産学官金連携の代表的な枠組みとして、この地域のウェルネスの実現にも目指しているところでございます。

4ページの事業内容のとおり、この医工連携拠点はワンストップの相談窓口として、229件の実績を積み上げるとともに、製品化支援では過去10年で15件の実績がございました。その製品化の具体例が5ページになります。

記載の医療用機器の製品化に加えまして、ベンチャーの支援なども行っているところでございます。記載の株式会社はままつメディカルソリューションズは、2019年に設立されました。浜松医科大学発のベンチャーとなります。

6ページ、この他の医工連携拠点の取り組みといたしましては、医療・介護現場との意見交換会や見学会、スタートアップを資金面で支援する支援事業などを行っております。

7ページから2つ目の事例、A-SAP産学官金連携イノベーション推進事業となります。このA-SAPですが、光電子技術を使いまして中小企業の課題解決を支援するプログラムです。大学などの研究者、課題を抱える企業、事業化支援に長けた金融機関などでチームをつくりまして、このチームに対して経費面を含めた支援を行うというフォトンバレーセンターの事業でございます。

もともとはブリュッセル自由大学の教授が実践していたプログラムをモデル化したもので、8ページの左側に記載のとおり、1つの課題に対する支援上限は500万円、募集期間は年4回、平成30年度からの採択実績は30件でございました。

その具体例は9ページになります。株式会社Happy Qualityの農業AIを用いました湛水制御による高糖度のトマト栽培技術や、株式会社日本スポーツ科学による50メートル走のタイム測定システムの開発などがございます。

このA-SAP事業も、まさに当地の産学官金の連携を象徴する事業ですし、フォトンバレーセンターの一番の主要事業と言えると思っております。

そして事例の3つ目です。地域イノベーション・エコシステム形成プログラムについて、10ページからになります。このプログラムは静岡大学が中心になりまして、記載の産学官

金の各団体とともに、浜松地域にイノベーションのエコシステムを形成することを目指したものとなります。

平成 28 年度に文部科学省に採択され、内容としては 11 ページになりますが、立体内視鏡など医療のそれぞれの場面で生かせる技術の研究開発を行ってまいりました。

12 ページはこのプログラムの体制となります。スタンフォード大学の池野文昭先生に事業プロデューサーをお願いしまして、医工連携拠点と A-SAP のそれぞれの事業に加えまして、事業に関係する団体が連携して取り組んでまいりました。そして成果事例の説明は 13 ページのとおりとなりますけれども、プログラム自体は昨年度をもって終了をしております。今後もこのような産学官金の連携が進むようなプロジェクトについて、地域として積極的に取り組んでいくことができればと考えています。

最後に 14 ページからの参考のページをご覧ください。冒頭申し上げましたが、イノベーション構想の策定にあたり、今回、地域企業は 2,400 件を対象にアンケートを実施しました。この集計結果の速報となります。

14 ページはまず大学等の外部機関との連携状況を市内企業に尋ねたものですが、左の表のとおり、回答があった中では、大学・研究機関との「連携未実施」が 83 社と最多でしたが、右のグラフのとおり「連携実施中」、または「連携検討中」と答えた企業の連携先が、大学・研究機関とした回答が 22.8 パーセント、「他の企業」と回答したのが足して 27.4 パーセントとなりました。15 ページは大学・研究機関との連携状況別の成長 7 分野への取り組み状況の結果となります。成長 7 分野とは次世代輸送用機器、健康・医療、新農業、環境・エネルギー、ロボティクス、光・電子、デジタルで、イノベーション構想で掲げているものとなります。

下のグラフのとおり、連携検討中の 13 社で成長 7 分野の取り組みを「実施中」と「開発中」と回答した合計が 76.9 パーセント、「連携実施中」は 80.5 パーセントで、成長 7 分野の取り組みに積極的なことが伺えるかと思えます。

そして 16 ページです。成長 7 分野別で「開発中」と「事業実施中」の企業について、大学との連携状況を尋ねたものです。例えば、次世代輸送用機器の分野で「開発中」と「事業実施中」の企業は 48 社ございまして、そのうち大学との「連携実施中」との回答は 33.3 パーセントございました。その他、新農業の分野では 57.1 パーセントを筆頭として、全ての分野で 3 割以上の企業が大学と連携中だと回答をしております。

以上のように、アンケート結果からも地域企業にとりまして大学の存在は非常に大きく、両者の連携に加えて支援機関、行政も加わった地域の産学官金の連携体制は、この浜松地域にとってますます強みとなり、地域産業の発展には重要な要素だと改めて認識したところでございます。

私からの説明は以上でございます。

(浜松市長)

ここからは、今浜松地域における産学官金の連携の事例や現状について説明がありましたけれども、大学の役割、在り方も含めて今後の浜松地域の将来像につきまして、皆さまから忌憚のないご意見をいただければと思います。

滝浪会長がこの後ご退席ということなので、滝浪会長からご意見をいただければと思います。

(浜松市医師会長)

このような形で参加させていただいて申し訳ありませんでした。私は今ワクチン接種に携わっておりますのでこのような形にさせていただきます。

静岡大学長が代わられて心配いたしましたけれども、両学長から本当に未来を見通した形でお話をいただいたので、少し安心をさせていただいております。

地域の医師会としては、問題提起という形でわれわれがこのイノベーションの形で事例をお願いして、そこを解決していただくような形の産業ができたらと思っております。

実際に開発するところまでは携われなと思いますが、普段の医療行為をしているときに問題点が多数ございます。それは分野を問わず、工業のみならず理学的なところ、それから教育的なところでもございますので、ぜひそういう意味で協力をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

ワクチン接種は現在、高齢者の接種率が1回目は80パーセント、2回目は60パーセントとなっておりますので、かかりつけ医としてやっているところでございます。頑張らせていただきますが、本日は大変申し訳ありません。退席させていただきますので、よろしくお願いいたします。

(浜松市長)

ワクチン接種もよろしくお願いいたします。

それでは、引き続きご意見等ありましたらお願いをしたいと思います。

(浜松商工会議所会頭)

統合というのは非常に文化でも違うからいろんなことが大変だと思う。大変だけれどもきちんと出口はいつまでに何をするかルールを決めておかないと。完璧なものを最初は作らないと言うと、結局何もできない。作ってからそこへ段々と肉付けをしてちゃんとしていくということが私は基本であるし、今はスピードの時代で、いろんなことにしても本当に、最近日本の技術も特殊なものはいいけれども、海外に結構負けてしまっている。そういうことで、そこに進んでいかないと。

今浜松では光が結構進んでいる。光はいくら進んでもそもそも隙間産業だから、結果的には裾野が狭いというか。けれどもEVとかそういうものは裾野が非常に広い。そういうこ

ともいろいろ考えて、両方をちゃんと、こっちが大事ではなく両立していかないと、浜松の経済全体として非常に難しいし、私もいろんなことを今でもやっているし、理由ばかり言っていると、いつまで経っても進まないから、決めてしまうとそこに向かって何が不足しているかと、何があったということを確認すると、スピードが結構速いし、やはり何事も完璧を求めるとできないので、だからきちんとして日にちを決めていつまでに、10年後とかではなく2年後なら2年後とか半年後とか、それに関しては何をやっていく、何をやっていくと期限を決める。それで1つ形を作って、そこから肉付けをしていけば私はいいと思う。

私は全体として統合するのは、駄目なら最初から無駄な時間になってしまう、でもやると決めたならばなるべく早く統合して、今日みたいな会議をしても、同じ会議ではなくここまで進んでやると。で、あとはここが足りないからどうしようとか、ここをこうしようとか、こういう会議にしていくと、私は非常に良くなるし前に進むと思いますので、この次のときにはきちんと期日を、いつまでに何をするかということも決めてしていかないといけない。

この会でなしに、どうやっていくかということ、どういう期日がいいかということ、こういうことを決めて進まないで、10年たってもこういう会議で同じ議論になってしまう。という、こういう会議でこのままなっていくと思うので、ぜひスピード感を持ってということで、よろしくお願ひしたいと思います。

(浜松市長)

他にご意見、よろしいですか。

(浜松市議会議長)

浜松市議会議長の和久田でございます。よろしくお願ひいたします。

先ほどお話を伺いまして、静岡大学につきましては、学内で調整していくというふうな話を伺いました。先ほど話が出ていますけれども、やはり静岡と浜松と学部をやっていると思いますけれども、学部がいっぱいありますので、できるところから始めていかないと、会頭が言ったようにずるずる先へ先へと行ってしまう。その辺が懸念されますので、ぜひできるところから進めて行っていただきたいというふうな思いがしております。

あと浜松医科大学につきましては、センターをつくって進めて行くという話を伺いました。ぜひ、連携してやっていただきたいと思っております。

浜松につきましては、以前から地域イノベーションとして産官学金の連携をしております。そういう中に関してはものづくりのまちとして優秀な企業が多く技術は世界に誇れる非常に高いものがあります。

現在、浜松市は、はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点として新規事業の開発を支援しております中で、各メーカーの持つ得意な技術をもって、新たな医療機器の開発をす

るなど、医工連携により社会貢献や地域貢献をしております。

また、農業につきましても、AI や ICT を利用した技術革新を進めているというのが現状であります。それが地域の産業の掘り起こし、地域経済の持続的発展にもつながると思っております。

そういう中でやはり今、大学再編には慎重に進められているということですが、世の中は日々進化、変化しております。その中で浜松の未来のためにも 1 日も早く進めていただくと期待しておりますので、よろしくお願いいたします。以上です。

(次世代自動車センター長)

先ほど浜松市から産学官金の取り組みの中で、輸送機器関係の次世代自動車センターに絡む話が抜けていたものですから、3 つほど大学との連携をさせていただいています。1 つは、地域の中小企業の困り事相談ということで、窓口を各大学に設定させていただいて、何かあったときに相談させていただく。あるいはそれを研究のテーマにさせていただく。そんな窓口を設定させていただいております。

2 つ目は、私どもの事業の中で試作品をつくるのですが、その試作品を適正な所に委託するかどうかという審査会をやっているのですが、中小企業の取り組みや技術に詳しい先生を審査員としてお願いをして、審査委員会に出させていただいているということ。

3 つ目は、当然ながらいろんな講座を開いているのですが、その講座の先生をやっていただいたり、あるいは実習場をお借りしてみんなでモーターをつくるとか、そんな実習の場にさせていただいたり、そんなことをしております。

こういう取り組みも 1 つの実績になるのではないかとと思ひまして、産学との実績ということも支援機関として大きく PR していきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

(フォトンバレーセンター長)

産学官金の連携について少し。産学の連携は大学のシーズを生かしたシーズプッシュの連携と、企業のニーズに即したニーズベースのものがあって、先ほど事務局から紹介いただいた A-SAP のプロジェクトというのは、完璧にニーズベースの連携を進めていきたいということで、企業の抱えている課題を取り出してきて、それを解決するプロジェクトチームを大学に設置する。そのプロジェクトチームに金融機関の人も入ってもらって起業家をサポートしてもらおう。

そういう仕組みなのですが、そのニーズベースの産学連携というのを、ここまで組織的に進めている事例というのは全国でもそんなにない。これは私、大学の立場でここでは発言するべきではないかもしれませんが、大学としての個性を出していくというのが、これから非常に大事な課題であって、静岡大学、あるいは浜松医科大学を含めて、地域のニーズにきっちり応える。そういう役割というのを果たすということが大切です。

当然、大学ですから教員の自由な発想に基づく研究を広げていくというのも必要ですが、それと同時に、地域のニーズにきっちりと応えていくという、そういう大学を、静岡地区の大学も浜松地区の大学も目指してほしいと思います。そのためのサポートを行政の方でも今まで真剣に取り組んでいただいていますし、これからもさらに強力に進めていただければと思います。

(浜松市長)

文部科学省の方針もそういう方向性というように伺っています。最近結構そういう取組に行政もしっかり関与を求められていますので、われわれもしっかり責任を果たしてまいります。

(浜松商工会議所会頭)

今言ったことも、統合しなかったら言うだけで何もできないですわ。統合すべきです。そこからいろんなことをやって行かないといけない。まず統合して、統合の中にいろんなことがいっぱいある。でもその中で、駄目なことを全部クリアしながらいろんなことをしていけないといけない。

今、静岡大学、浜松医科大学というのはいろいろ違うから、これが統合したら素晴らしいものになると思う。ただし文化は全部違うから、それは非常にややこしい問題がいっぱいあるけれども、それをやりながらいろいろしていったら素晴らしいものになるし、だから1つずついろいろしていくとね。だから統合の期間はいつにしようかということを決めた方が私はいいと思う。

(浜松市長)

もし統合されると、時価総額が一気に上がる。

(浜松商工会議所会頭)

日本でも大学として相当有名な大学になる。東京大学、京都大学、名古屋大学の次ぐらいになる。

(浜松市長)

他によろしいですか。

(浜松医科大学長)

今回の医工連携教育研究センター(仮称)の設置は、今のお話に沿ったもので、行政の理解を得ながら地域貢献するための組織です。医工学連携の推進は今回の再編・統合の大きな目標と言いますか、将来構想の1つだと思います。

ただ年初に、前石井学長が再編・統合の延期を発表したわけですし、もうすでに出遅れています。各委員がご指摘のように、時代はどんどん進んでいまして、日本初の Society5.0 を引っ張る先鋭的な大学といってから 3 年たっているのに、段々周回遅れの感が否めなくなりつつあります。

地域貢献という意味でも、再編・統合に関し、浜松医科大学はほぼ全員の意見が一致しているのですが、相手のあることであり、いろいろと苦勞をされておられるので、そのことに関してわれわれがどうのこうの言う立場にありません。

ただ、やはり今回の再編・統合の目的は何かということを考えますと、再編・統合はメイントラックとしても、できることはどんどんやっつけていこうというのがこのセンター構想です。市からも産学連携の具体例のご紹介があったように、すでに浜松市としても実績があるわけですので、これをさらに発展させようということです。本学の iMec 棟にはすでに金融機関の方も産業界の方も常駐されていますので、この仕組みを進めていきたいというのが 1 つです。

もう 1 つは、再編・統合が 1 年遅れるとその年に入るのであろう若い人達が入学できないのです。来年また駄目だとまた入れない。ちょっと話がとんで恐縮ですが、実は今年初めて工業高校からとても優秀な子が本学に入って来ました。開学以来です。高校生が自分の進路を通常の枠組みを超えて自らが選んでくる時代なのに、大学が彼らの望むような修学の間を与えられているかということを考えるわけです。

ですから、今回はそういう熱意のある、野心のある若い学部学生、大学院生に、スタートアップ企業の提案はないかぐらいの、刺激を与える意味でも教学として是非進めたいと思っています。それがセンターのもう一つの大きな柱でありまして、アントレプレナー教育を遅滞なく行いたいということと、産学連携をこれまで以上に深化させたい。それがこの構想の目的です。ですから再編・統合というメイントラックとは、また別で、もちろん再編・統合の実現に向けてご指摘のように鋭意努力をして参りますが、実現したら何をするのか十分考えながら、われわれとしてやれることを先行して進めて行こうと、そう思っているところであります。

(浜松市長)

スタートアップを志す学生がいたら、われわれもサポートしていきます。

(浜松医科大学長)

ありがとうございます。

(浜松市長)

行政としてサポートします。

(浜松医科大学長)

ぜひプレゼンもやる予定でいますので、ぜひよろしくをお願いします。

(浜松市長)

日詰学長からも一言。

(静岡大学長)

先ほど伊東先生や大須賀会頭からも、ある程度いつまでに何をするとかということをも明確にすべきだという、そういうご指摘はもっともだと思います。私どももそれを考えていないわけではなくて、学内でもそういう声はたくさんありますので、それを受けつつも教職員全体の思い、意識、そういったものが方向性として収束していくというか、そういう方向に向かうように努力するというのが私の使命だと思っています。そのために努力していくということで、今日は本当に申し訳ございませんけれども、お許しいただければと思います。

先ほど今野学長からも少し触れられましたけれども、来年の4月から国立大学法人は第4期中期目標・中期計画6年間でございますけれども、そこに入って行くわけでございまして、今日までに文科省にそれを提出するということになっていまして、私どもでも提出したわけでございますが、その中の1つのテーマが、ステークホルダーとのエンゲージメントということで、今は国が国立大学法人に求めているのは、先ほど伊東先生がおっしゃった地域とのエンゲージメントですね。

そこで教育研究、そこで生み出されたシーズというものを地域に還元していく。そこでのエンゲージメントを考えなさいということが、非常に強く言われているわけでございます。

そこで私どももその辺りのところにある程度力を注ぎながら、先ほどいろいろと浜松市のこれまでの取り組みも学ばせていただいておりますので、そこと静岡大学全体がどういうふうに関われるのか。例えば和久田議長がおっしゃいましたけれども、農業の分野におけるイノベーションというのは、静岡キャンパスの方が相当やっているわけです。そういったものもうまく浜松に還元できるような、そういうつながりも考えていかなければいけないと思います。

そういう意味で言うと、今後われわれが目指さなければいけない方向性というのは、これは浜松医科大学と連携しながら、いろんな分野に広がっていく可能性があるのではないかと思います。もちろん望月センター長のやっておられる次世代自動車の話とも多くつながっていきますし、いろんな意味で可能性というのは大きいだろうとっておりますので、その可能性のことを皆さまと共に考えながら、さらに進んで行くことができるように努力したいと思います。

今後とも皆様にはかかわっていただければと思っておりますので、よろしく願いいた

します。

(浜松市長)

そろそろご意見も出たと思いますので、今日は日詰学長から基本的な方針は変更されていないということを伺いまして、私も安堵したところでございます。

なかなか浜松・静岡両キャンパスを抱えながら、これをまとめていくというのは大変なことだろうというふうに推察しますけれども、ぜひそういう中で一步ではありませんけれども、再編・統合に向けて進めて行きたいと。浜松は全面的に応援をしておりますので、ぜひ今野学長にはリーダーシップを発揮していただいて、この事業を推進していただければと思います。われわれも浜松地域は一致団結をして応援をして、支援をしておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、今日の会議はお開きとさせていただきます。あとは事務局の方でお願いをいたします。

5 その他

(事務局 (企画調整部長))

それでは、次第 5 のその他でございますが、次回会議の開催時期につきましては、今日の議論等を踏まえまして決定させていただきたいと思っております。事務的に今後また調整させていただきますので、よろしく願いいたします。

6 閉会

(事務局 (企画調整部長))

それでは、これをもちまして第 3 回の会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。

(終了)